

背景・課題

- 国際的な研究力競争が激化する中、国際共著論文の割合が低調である等、日本の存在感が低下
- 基盤研究費の縮減等により、研究費・研究時間が劣化
- 若手研究者の雇用・研究環境が劣化

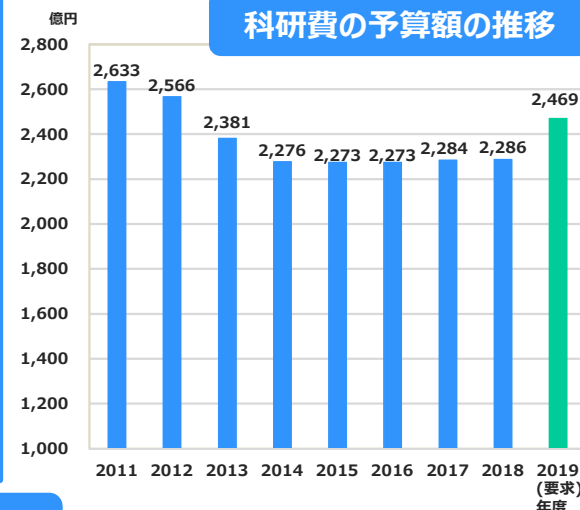
【未来投資戦略2018における記載】

若手研究者が自立的に研究に挑戦できるよう、**科学研究費助成事業等について若手向け研究種目への重点化**を図る

- 科研費は我が国の論文産出を質・量の両面で牽引^(※)し、イノベーションの源泉である「学術研究」を幅広く支援
- 科研費改革の全面展開を加速させるため、制度の「質の向上」と「量の充実」の一体的強化が不可欠

(※) 科研費関与論文のTOP10%論文の割合は約10%で、科研費非関与論文の割合約7%を大幅に上回り、産出数も我が国の産出数の約60%を占める (Web of Science XMLを用いて科学技術・学術政策研究所が集計)

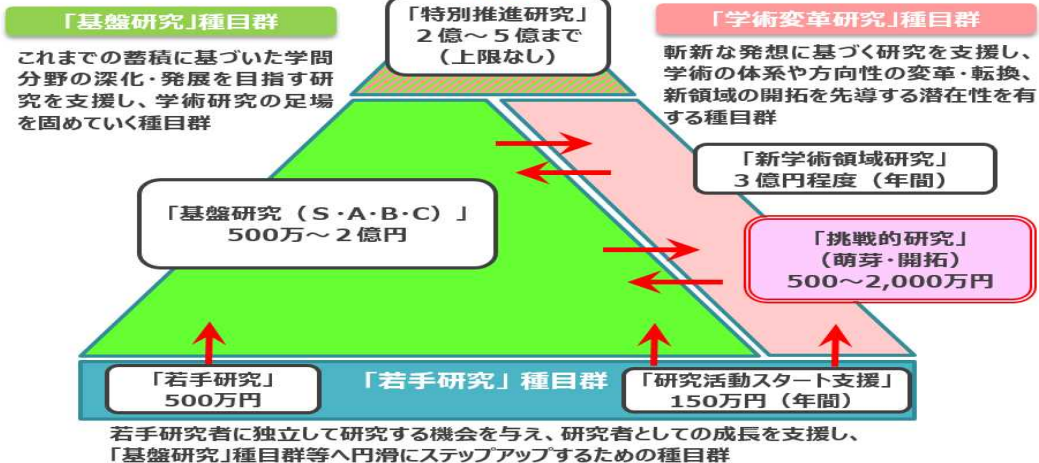
科研費の予算額の推移



事業概要

- 人文学・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的資金」
- 中核的研究種目の充実を通じた「**科研費若手支援プラン**」の実行や**国際共同研究の一層の強化**により、**科研費改革を着実に推進**する

科研費の研究種目体系



2019年度要求の骨子

1. 中核的研究種目の充実を通じた「科研費若手支援プラン」の実行

- 若手研究者のキャリア形成に応じた支援を強化するため、「**若手研究**」とともに「**基盤研究**」種目群を**拡充**
- 特に、国際競争下での研究の高度化に欠かせない、より規模が大きい「**基盤研究(B)**」を**拡充**
- 若手研究者を中心に研究活動のスタートを最初に支援し、その後の研究への円滑なステップアップを促進する「**研究活動スタート支援**」を**拡充**

2. 国際共同研究の推進 (「国際共同研究加速基金」の拡充)

- 若手研究者の参画を必須として国際共同研究を加速する「**国際共同研究強化(B)**」を**拡充**
- 海外の研究機関に所属する優秀な若手研究者等の帰国後の研究を支援する「**帰国発展研究**」を**拡充**
- 科研費に海外渡航時の研究費の中断制度を導入 (制度改善事項)